

目的 衣服設計にあたっては、着衣基体を多面体としてとらえることが有効である。即ち、平面作図法により衣服型紙を設計するときに必要な情報を得ようという立場から、着衣基体の立体的な特徴を反映し、またある程度通常の衣服構造に準ずるような分割線により、体表面形態をいくつかの面に分割してとらえることを試みた。

方法 今回は、われわれが既に報告した立体裁断法により採取した、68名の婦人の胸部体表の近似展開図を資料とした。そしてこれを、肩先点から前ウエストダーツを経てウエストラインに至る線、後腕付根点からウエストラインに至る線、肩ダーツから後ウエストダーツを経てウエストラインに至る線によって4つの部分(前より順に才1～才4パートとする)に分割した。さらに各パートにしるされている胸圍線が直線状に連なるように、各分割面を回転した。この状態で、各分割面の胸圍線の長さ、前ウエストダーツの頂点の上下に現われるダーツ(前ダーツとする)と後ウエストダーツの頂点の上下に現われるダーツ(後ダーツとする)に関して上側の角度(上角とする)と下側の角度(下角とする)、そして後腕付根点より下におりるダーツ(後腕付根点ダーツとする)の角度を計測した。

結果 各パートの幅が胸圍線全体の長さに占める割合、及び各ダーツ角度の割合が平均的にどの程度であるかが明らかになった。また、幅の項目でバラツキの大きいのは才2パートで小さいのは才1パートであった。ダーツ角度でバラツキの大きいのは前ダーツの下角で小さいのは前ダーツ上角と後ダーツ上下角であった。